

カルメル靈性センター(月刊)

2003(平成15年)2月号

2003. 2

靈性センターニュース

174号



〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
宇治聖テレジア修道院(黙想)  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457

## 「器としてのことば」

カルメル会 中川 博道

先日、高校時代の恩師が洗礼を受けて亡くなられたという知らせを受けました。ご自分がなさったキリスト教についての授業の内容が、納得のいく誠実なものではなかったとあって、次の時間にやり直されたような方でした。

その先生が私の中に残して下さった言葉を思い起こしました。「自分が使うひとつひとつのことばについて、その意味を丁寧に考え厳密に使うようにしなさい。ことばの奥にある深い意味を思い巡らすことを大切にしていきなさい。」以来、この勧めは、いつも心のどこかに置かれたものとして、私の歩みに同伴してくれました。そして教会に出会ってからも、いわゆる教会用語として日常的に使われていることばについて考えさせられてきました。「信仰」「希望」「愛」「恵み」「祈り」「掟」「犠牲」「教会」「宣教」「いのち」「洗礼」「神秘」などなど・・・

洗礼を受けて30年余り、最近「信仰」という言葉が懐かしさをおびてきたことに自分でも少し驚いています。全く意味が解からずに、使うことさえはばかれた時代。わからないことを強く意識し反撥さえ感じていた時代。そんなことを経て今、自分がいのちの造り主であるお方に無条件で愛され、存在を支えられているということを感じて受け入れることに、平和を見出し始めています。このように教会用語のひとつひとつを受け入れていく自分なりの「歴史」があります。そして、言葉の真の意味をたどって行く旅は、まだまだつづいていくのでしょうか。

「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考え  
聖書を研究している。  
ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。  
それなのに、あなたたちは、  
命を得るためにわたしのところへ来ようとしない。」

(ヨハネ5章39～40)

# 霊性センターカルメル

## 1. 聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院（黙想）(2003年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（2003年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(3)名古屋（日比野教会）連絡：小林厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

(4)大分聖テレジア修道院（黙想）

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL. 0975-41-4012

(5)横浜聖書深読黙想会・ 諸所の企画をごらんください。

連絡：蜜本昌俊 電話 045-621-5838

(6)通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を  
組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：菅谷俊子。 東京都新宿区住友ビル私書箱22。 TEL. 03-3344-2527

\*「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。3冊以上注文されれば 20 %引。

オリエンス宗教研究所 FAX. 03-3325-5322

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEJ. 03-3322-7601

### \* 聖書深読黙想会

東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）

3月1日（土）夕食18時～3月2日（日）16時 奥村神父

### \* 奉献生活者と信徒のための黙想会

1月28日（火）16時～2月6日（木）朝食 星野神父

## 2003年 カルメル会 東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)

### 黙想会年間スケジュール

#### 1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ：星野正道師 (カルメル会)、原 造修士 (カルメル会)  
Sr.中川享子 (ケベックカリタス会)

- (1) 6月 7日 (土) 16時～16日 (月) 朝食
  - (2) 10月20日 (月) 20時～29日 (水) 朝食
- 全期間参加の方優先ですが、二泊からの部分参加も可能

#### 2. 奉獻生活者のための黙想会

- (1) 7月30日 (水) 16時～ 8月 8日 (金) 朝食 渡辺幹夫師
- (2) 8月12日 (火) 16時～ 8月21日 (木) 朝食 星野正道師
- (3) 12月26日 (金) 16時～翌年1月4日 (日) 朝食 チブリアーノ師

#### 3. 聖書深読黙想会

次の各土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで

- (1) 4月12日 (土) ～13日 (日) 奥村一郎師
- (2) 6月28日 (土) ～29日 (日) 九里 彰師
- (3) 9月27日 (土) ～28日 (日) 星野正道師
- (4) 11月29日 (土) ～30日 (日) 九里 彰師

2004年

- (5) 1月10日 (土) ～11日 (日) 星野正道師
- (6) 3月 6日 (土) ～ 7日 (日) 奥村一郎師

#### 4. ウェンズデイ・リトリート

スタッフ：星野正道師 (講話、ミサ、etc.)

テーマ：「み手の中ですべては変わる」

A

- (1) 4月23日 (水)
- (2) 6月 4日 (水)
- (3) 9月 3日 (水)
- (4) 11月 5日 (水)
- (5) 2月18日 (水)

B

- (1) 5月21日 (水) 10時～16時
- (2) 7月 2日 (水) "
- (3) 10月 1日 (水) "
- (4) 12月 3日 (水) "
- (5) 3月 3日 (水) "

## 5. 奉獻生活者と信徒のための黙想会

2004年1月19日(月)16時～1月28日(水)朝食 星野正道師

## 6. 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからの集合。どなたでも参加できます。

- (1) 7月 7日(月)20時～9日(水)15時 新井延和師
- (2) 11月18日(火)20時～20日(木)15時 //
- (3) 12月 5日(金)20時～7日(日)15時 Sr.伊従信子

## 7. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし)チェックアウト午前10時まで

- (1) クリスマス 12月24日(水)～25(木)朝食
- (2) 復活祭 2004年4月11日(土)～12(日)朝食

## 8. ユース・リトリート

若者のための黙想会

11月22日(土)夕食～11月23日(日)16時 大瀬高司師

## 9. 男子青年黙想会

スタッフ: カルメル会士

- (1) 5月16日(金)20時～18日(日)16時
- (2) 11月 7日(金)20時～9日(日)16時

## 10. 男子召命黙想会

スタッフ: カルメル会士

10月3日(金)20時～5日(日)16時 (修道生活体験あり)

その他、皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

(お問合せ、お申込み) カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355(黙想) FAX. 03-3704-1764

上記が通じない場合は、修道院 TEL. 03-3704-2171 へお願い致します。

ただし、黙想関係の受付窓口を一つにしておりますので、電話でのお問い合わせは、なるべく午前9時～午後5時までの間にお願ひ致します。

尚、受付が休みになっている際は、すぐにお返事ができない場合もあります。その際は、恐れ入りますが、後日改めてお問い合わせ下さいませようお願ひ致します。

2003年

## 黙 想 会 案 内

### 【聖書深読黙想会】

(土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月11日(土)~12日(日)	奥村一郎神父
2月15日(土)~16日(日)	中川博道神父
3月 8日(土)~ 9日(日)	星野正道神父
4月26日(土)~27日(日)	奥村一郎神父
5月17日(土)~18日(日)	新井延和神父
7月19日(土)~20日(日)	星野正道神父
9月20日(土)~21日(日)	九里 彰神父
10月18日(土)~19日(日)	中川博道神父
11月22日(土)~23日(日)	新井延和神父
12月13日(土)~14日(日)	大瀬高司神父

### 【青年のための黙想】

・男性のため

5月23日(金)~25日(日)	九里 彰神父
11月 7日(金)~ 9日(日)	大瀬高司神父

(金曜日午後8:00一食すませてから)

・女性のため

7月5日(土)~6日(日)	星野正道神父・カルメル宣教
12月7日(日)午前10時~午後5時	カルメル宣教会

### 【一般のための黙想】

・水曜の黙想

(午前10時から午後4時まで)		
1月 8日(水)	一年の初めに	アロイジオ神父
2月12日(水)	祈り	シスターベアトリス
4月23日(水)	復活	新井延和神父
5月14日(水)	聖母マリアとともに	奥村一郎神父
6月18日(水)	聖 霊	長岡幸一神父
9月17日(水)	十字架の神秘	新井延和神父
10月 8日(水)	アピラの聖テレジア	新井延和神父
11月12日(水)	愛と死	奥村一郎神父

・聖テレーズの黙想

10月 4日(土)午後5時~5日(日)午後4時	伊従信子氏
-------------------------	-------

・四旬節の黙想

3月15日(土)~16日(日)	北村善朗神父
-----------------	--------

・待降節の黙想

11月29日(土)~30日(日)	星野正道神父
------------------	--------

### 【特別黙想】・英語による黙想会 (部分参加も可能です。)

4月29日(火)~5月3日(土)	シスターベアトリス (カルメル宣教会)
------------------	------------------------

### 【奉獻生活者の黙想】

(午後5時集合/午前9時解散)	
7月7日(月)~7月16日(水)	星野正道神父
8月6日(水)~8月15日(金)	中川博道神父

### 《申し込み》

- ・はがき 又は FAXにて、「氏名・住所・電話番号・(所属修道会名)」を書いてお申し込みください。
- ・但し、一般の「一日黙想」は電話での受付もいたします。
- ・また個人、グループの黙想もできますし、個人、グループが企画した黙想のための場所としてもご利用ください。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

# 祈り

## カルメルの靈性に基づいて

月	日	時	テーマ
2月	24日	(月)	祈りとはなにか
3月	3日	(月)	イエスが祈ったように祈りましょう
	17日	(月)	罪によって傷ついている
4月	7日	(月)	祈りとは神との親しさ
	21日	(月)	復活された方と生きる
5月	5日	(月)	マリアのように祈る
	19日	(月)	祈るための人間性の大切さ
6月	2日	(月)	聖霊によって祈る
	16日	(月)	祈り三位一体的な経験

時間：2：00～4：00

どなたでも参加できます。

費用：無料

担当：カルメル宣教修道女会 シスターベアトリス

場所：宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

# カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：キリストとの出会い

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分）  
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会(TEL 03-3704-2171)

日時：下記の各土曜日 午後2時半開始（講話の後ミサがあります）



- 3月8日（土） 新井延和（カルメル会司祭）  
「パウロとキリストとの出会い」
- 3月15日（土） 中川博道（カルメル会司祭）  
「祈りの中でキリストに出会う」
- 3月22日（土） 松田浩一（カルメル会司祭）  
「会則を生きるー共同体とキリスト」
- 3月29日（土） フランコ・ソットコルノラ神父（生命山カトリック別院）  
「典礼の中でキリストと出会うー土着化の例」
- 4月5日（土） 奈良康明師（駒沢大学前学長）  
「生活の中に『法』を証する」

## 【外部講師の紹介】

フランコ・ソットコルノラ神父

聖ザベリオ宣教会司祭(元管区長)。イタリア、ベルガモ市生まれ。聖ザベリオ神学院で神学、特に典礼学および哲学を教える。ローマ教皇庁典礼省勤務。熊本県玉名に東西宗教交流センター(生命山カトリック別院)を設立し、諸宗教との対話を積極的に行なう。神学、典礼に関する著書や論文多数。

奈良康明師

1929年、千葉県生まれ、東京大学文学部インド哲学梵文学科卒業。カルカッタ大学大学院人文科学研究科(比較言語学科)博士課程終了。インド宗教文化史専攻。文学博士。駒沢大学前学長。編著書：「仏教史Ⅰーインド・東南アジア」「仏教の教え」「釈尊との対話」「仏教の心を語る」仏教名言辞典」他多数。



## 2003年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日 程

ご指導

- ・ 5月 2日（木）夕食 ～ 5月 5日（日）昼食 アロイジオ神父様
- ・ 6月24日（火）夕食 ～ 6月27日（金）昼食 九里 彰神父様
- ・ 9月12日（金）夕食 ～ 9月15日（月）昼食 中川 博道神父様
- ・ 10月16日（木）夕食 ～ 10月19日（日）昼食 星野 正道神父様
- ・ 11月13日（木）夕食 ～ 11月16日（日）昼食 チブリアノ神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL・FAX 03-3892-1378（阿部 昌子）



(28)

蛭田幼一

一九九八年十一月二十一日

信仰の光りに照らされて哲学する友よ、ソクラテスの弟子よ、  
きみは僕の姿を映し出す鏡だ。「四十九年この方、きみは孤独  
だったということだな、謂わばアウトサイダーで、しかも周囲  
の人はちっともそんなことには気づかないのだ。」そのとおり  
だ。僕はきみのことばによって僕自身の姿をはっきりと知った  
よ。鏡に映った自分の姿を見る思いだよ。失われていた僕をそ  
こに見つけたのだ。



## 処女マリアのロザリオ（２） = 講話 =

チプリアノ・ボンタッキョ神父

「ロザリオを唱えることは、キリストの御顔をマリアと共に驚嘆しながら仰ぎ見ること以外のなにものでもない」（使徒的書簡『処女マリアのロザリオ』序文3）

この言葉は教皇ヨハネ・パウロ2世がロザリオをどのように理解しているかを示すものです。

ロザリオを祈る時、聖母マリアへの祈りを何回も繰り返します。それは、マリア様に導かれてマリア様のように奥義を観想する恵みを願うためです。

教皇様は、この祈りが教会の中で再評価され普及するように、今年（2002年）の10月から来年の10月までの1年をロザリオの年と宣言なさいました。

ところが、教会の中でロザリオに反対する意見があります。教皇様は書簡の中で2つをとりあげてその意見に反論しておられます。

一つはロザリオは信仰生活における典礼が占めるはずの中心的な役割にそぐわないという意見です。それに対して教皇様は、ロザリオはむしろ典礼を支持する祈りだと主張されます。その理由は、ロザリオは典礼への優れた導入、かつ忠実なこだまとなっているはずだからです。ロザリオを唱えるたびにキリストの御顔を仰ぎ見ることによって、ますます満たされた心で人々は典礼に参加し、日々の生活においてその実りを豊かに得るという結果をもたらします。したがって、ロザリオはむしろ典礼が果たす役割を支持する祈りだということです。

もう一つの反対意見は、ロザリオはそのはっきりしたマリア的性格のために反エキュメニカルな祈りだということです。この意見に対して教皇様はキリストの御顔を仰ぎ見るロザリオはむしろエキュメニカル運動を助けるものだとして強調されます。「母が讃えられることによって子が正しく知られ、愛され、讃えられその命令が守られる」（教会憲章66）という言葉が示すようにイエズスの母への崇敬はイエズスへと導くものだということです。

さて、教皇様が取上げておられる反対意見は、この二つだけでしたが、人々がこの祈りになじめない理由は他にもあると思います。それは、長い祈りで同じ祈りが何十回も繰り返される……奥義を黙想しようと思ってもなかなか精神を集中することが難しいなどの声を何度も耳にします。

小さきテレジアも（自叙伝318）ロザリオを唱えることは自分にとってつらいことだと書いています。そのつらさの原因は「奥義を黙想しようとした時、どうしても精神を集中することができません」と聖女は告白しています。でも、そういうつらさを感じても彼女はこの祈りを続けていたのです。それはそういう不完全な唱え方しかできなくても、「マリア様は私のお母様だから、私の善意をご覧になって満足してくださると思います」と。

さて、こういう時代においてロザリオの大切さが強調されなければならないいくつかの理由を教皇様はこの書簡の序文の5から8番の中に示しています。

—人々は他の宗教の良い影響もあって、深い霊性への渇きをおぼえているので、ロザリオはその渇きを満たすことができるからです。

—ロザリオは「平和の祈り」として何度も教職によって勧められてきました。今も世界平和を祈らなければならない時だからです。

—ロザリオはまた、家庭の祈りとされています。家族揃ってこの祈りを唱えることによって、その一致が深められていくからです。

—ロザリオの祈りはマリア様によっても勧められています。ルルドやファチマの出現の時にマリアはこの祈りを勧めています。

—聖人たちもこの祈りを大切にしていたからです。

これらの理由もあって教皇様は教会の中でロザリオの普及を図ろうと思っておられます。



## … 主の御手のもとに生きる …

エディット・シュタインのメッセージ

—FEBRUARY—

至福の乙女マリアが御子を神殿にお連れしたとき、この御子は、多くの人々の滅びと復活のために反対を受けるしるしとして世に来られた、と預言されました。それは、苦しみのお告げ、光と闇の戦いのお告げでした。

最初の間が神の子供であることから墮落し、神から疎外されてしまったのと同じように、私たち一人一人も、無と、満ちあふれる神的生命との間の、紙一重のところ立っているのです。

他の全てのことが破綻しているこの時代にあって、私たちは、以前にも増して、最終的な助けは隠れた源泉から来ることを希望するよう迫られていることが分かります。

今日の若い人々は非常に多くの危機を経験しています。彼らはもはや私たちを理解出来ません。しかし、私たちは彼らを理解するよう努めなければなりません。そうすれば、おそらく、少しは彼らを助けることが出来るでしょう。

芸術家は、すぐれた同化能力を持っていることによって、子供と聖人に通じるところがあります。どんなことであれ、芸術家に内的に触れるものがあると、それらは一つのイメージに形成され、外的にも形作られることを要求します。これは芸術家に特有のことです。

真の芸術作品は全て、一つの象徴です。それは、人間の知覚において尽きることのない完全な象徴性のすべてが、その作品のうちに神秘的に反映されているという点においてです。このように理解されるならば、全ての真の芸術は啓示であり、すべての芸術的創造は奉仕なのです。

靈魂の中心は、自由な個人的決定の場であると同時に、良心の声が聞かれる場でもあります。それに加えて、自発的に自己を明け渡すことが、神との愛の一致のために必要です。それゆえ、自発的決定の場は、同時に神との自発的な一致の場ではなければなりません。

私たちは、自分に固有の方法によって、また、自分自身の最奥の自己から出ることによって、一個人であると同時に、一連の鎖を構成する輪となるように、呼ばれています。この関連は、他者を導き、他者のために実り多い者となるように、私たちを整えます。

個人の責任とは別に、共同体の責任というものがあると言うことができます。しかし、それは共同体のメンバーが様々な度合いで担うものです。能力のある人は皆、責任を担うことを助けます。それは、自己認識に目覚めた全ての人のことです。しかし、指導者としての立場に立つ人は、他の人々にも増して、そのようにしなければなりません。

自由な靈魂だけが、神のしもべであり得ます。ロボットのようにふるまう人々は、神のご意志によって定められた法律に従って、ただ機械的に進んで行くことが出来るだけです。しかし、神のご意志は、そのような人々を通しては、十分な生命力をもって働くことが出来ません。ですから、神のご意志を行うためには、自由な人間であることが必要なのです。

王国の支配者であるお方が、ご自分のためにではなく、靈魂自身のためにその靈魂を探し求めておられる、その国においてしか、靈魂は自分自身とその平和を見いだすことが出来ません。何物をも求めず、満ちあふれ、与え続ける、この豊かさのゆえに、私たちは、この国をいつくしみの王国と呼ぶのです。

人は、自由に選んだ苦行を行うことによって、自分自身を贖うことは出来ません。そのような行いのすべては、神のご意志によって導かれたものでなければなりません。自由意志の参与は、服従、すなわち自分自身を明け渡すことのうちにあるのです。

\* \* \* \* \*

この記事は、ケルン・カルメル会の Sr. マリヤ・アマータ・ナイヤーが編集し、聖女エディット・シュタインの姪に当たるスザンヌ・バツドルフさん（米国カリフォルニア州在住）が英訳された An Edith Stein Daybook: To Live at the Hand of the Lord (Templegate Publishers, Springfield, Illinois, U.S.A.) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

### エディット・シュタイン（十字架の聖テレジア・ベネディクタ）略歴

1891年10月12日にプレスラウにユダヤ人として生まれ、1922年1月1日にベルグツアーベルンのカトリック教会で洗礼を受けた。フッサールの門下生として、哲学、女子教育の分野で活躍した後、1933年10月14日にケルンの跣足カルメル会に入会、十字架のテレジア・ベネディクタの名を受ける。1938年末、ナチの迫害を逃れてオランダのエヒト・カルメル会修道院に移るが、1942年8月2日、ナチに逮捕され、同年8月9日アウシュビッツにて殉教の死を遂げる。1987年5月1日教皇ヨハネ・パウロ二世により列福、1998年10月11日、同教皇により列聖。1999年10月1日、シエナの聖カタリナ、スウェーデンの聖ビルジッタと共に、ヨーロッパの保護者と宣言される。

(西宮カルメル会 訳・編)

# 断想 177

## 二倍の祈り

どうしてか、今でも解せないことなのだが、歌の大好きな友人から急ぎの電話が入った。「歌いながら祈れば、祈りは二倍の値打ちがある」という諺は誰が言ったのか教えてほしい。聴く処では、偉大な聖人アウグスチヌの言葉といわれているようだが、原典で確かめてほしい、という難問。思わず、開いた口が塞がらぬほど戸惑った。というのも、小学生の時から音楽は最低「丙」という音痴クラスのわたしである。そんなわたしに、こんな難しい音楽にかかわる問題を、いきなり、投げ掛けてくる相手こそ人物評価の音痴、と思ったのもやむを得ない。だが、そうかといって簡単に電話を切るのも友達甲斐がない。ともかく、急いでいるようだったから、その道に専門の友達を尋ねてみることにして、返事を待ってもらうことにした。早速、取りあえず、聖アウグスチヌス研究を専門にしているN大学の教師に頼んだ。いつも、素早く答えてくれる彼の返事のFAXが届いた。

「二倍の値打ちになる祈り」と明記された聖アウグスチヌの言葉は見つからない。だが「歌って祈るのは良いことである」ことは、いつもの見事な文章で解説されている。

しかし、文字通りの「二倍」という言葉は見つからない。たぶん、聖アウグスチヌの説明に基づいて、人間の二分構造、「心と体」を結び付け、「二倍の祈り」という言葉がでてきたのではないか？。事実、音に引きたてられる祈りの感情は盛り上がるでしょうから、「二倍の祈り」といわれるようになったのかもしれない。しかし聖アウグスチヌの説とまでは言えないでしょう？

早速、この返事を友人に送ったが、小生の新コメントも一言付け添えさせてもらった。

「歌いながら祈れば、二倍の祈りになる」としよう。しかし、「沈黙の祈りは、無限倍の祈りになる」と言えないでしょうか？（参照 十字架の聖ヨハネ）

お世辞だったかもしれないが、苦しまぎれの「沈黙の祈り」という返事に感銘して下さったそう。

注。以上のことで気付かれたこと、参考になることを教えていただければ幸いです。

（奥村 宛）

## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(52)

### 神の名によって赦すこと

私たちはみな傷ついています。一体だれが私たちを傷つけるのでしょうか。しばしばそれは、私たちが愛している人であり、また私たちが愛している人なのです。私たちが、人から拒否され、見捨てられ、侮辱され、ごまかされ、約束を破られたと思う時、たいていの場合、その人は私たちにとって非常に近い人なのです。すなわち、両親や友人や配偶者や恋人や子供や隣人や教師や司祭なのです。私たちが愛している人が、私たちが傷つけもするのです。それは、人生の悲劇だと言えます。このために、その人を心から赦すことがとても難しくなるのです。傷つくのは、まさに私たちの心だからです。私たちは、嘆き訴えます。「あの時あなたと一緒にいてほしかったのに、あなたは私を見捨てたのだ。だからどうして、そんなあなたを赦すことができようか」と。

赦すことは、しばしば不可能のように見えますが、神にとっては不可能なことは何もありません。私たちの内に住む神は、私たちが傷ついた自分を乗り越え、「神の名によって、あなたは赦されています」と言う恵みを、私たちにくださるからです。この恵みを請い願いましょう。

(0128)

### 私たちの記憶の癒し

赦すことは、忘れることではありません。人を赦しても、傷ついた記憶は、長い間、否、一生の間、私たちの中に残っているかもしれません。時折、私たちは、その記憶を、目に見える印として、自分の体に担っていることがあります。しかしながら、赦すことは、それを思い出す仕方を変えるのです。それは、呪いを祝福へと変えるからです。私たちが、離婚した両親を赦す時、不注意であった子供を赦す時、危機において不誠実であった友を赦す時、間違った助言をした医者や人を赦す時、私たちは、自分がコントロールできなかった出来事の犠牲者であるとは、もはや感じなくなるのです。

赦すことは、私たち自身の内なる力を呼び覚まし、その出来事が私たちを破壊しないようにしてくれます。つまり、赦すことによって、私たちは、その出来事を私たちの心の知恵を深める出来事へと変えてゆくことができるのです。実に赦しが、傷の記憶を癒してくれるのです。

(0129)

九里 彰訳

## 主の奉献

シメオンは言った。「この子はイスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められている。」  
ルカ。 2 ; 22-40

ある日のことです。公教要理のときにシスターはまだ小さいマリーにこう尋ねました。「マリーを造ったのはだれかしら？」マリーはほんの少し首をかしげてから、言いました。「神さまがわたしのかけらをつくったの。」今度はシスターが、げげんそうに首をかしげて聞き返しました。「神さまがあなたのかけらを造ったって言った？」「ええ、そう！」とマリーはうなずきました。「そう、神さまがわたしのほんのちょっぴりをつくってからネ、そのあとはわたしと神さまがいっしょにつくったの。」

キリスト者たる私たちの生活もどこかこれと似ていて、神と私たちとの協力なのです。私たちの信仰なしには、神は何もなしえませんが、信仰があつてこそ、私たちはどんなことでも神と共にしうるのです。常に問われているのは信仰を持つか否かではなく、何をまた誰を信じているかということです。福音に記されているように、シメオンは世の救い主である幼子イエズスに対する信仰を持っていました。

神殿でイエズスが奉献されたことは、もう一つの神の威光を祝う儀式でした。彼は誰なのか。異邦人に対する啓示となる光でした。わが主イエズスがそうであったように、私たちキリスト者はこの混迷の世の光となることが望まれています。それでも、勤め先や学校、家庭での日々の務めにおいて、誠実で平和をもたらす者となろうとするとき、大抵の場合いさかいをもたらしたり、うまくいかずに終わることでしょう。私たちはそのことに立ち向かう勇気を持たねばならず、絶対にダメと言う必要のあるときには良心に従うべきです。

幼いイエズスの両親は律法に従って神殿でわが子を奉献しました。実際にあった慣習的儀式の記述にとどまらず、このできごとに含まれる多くのことから、キリスト教的靈性《神のものは神に返す》という靈性のより深い内容を伝えています。預言者エレミヤを通して神は語りました。「わたしがあなたを母の胎に造る前から、私はあなたを知っていた。」私たちがほかならぬ神からの贈り物であると自らをみなすことは、とても大切なことです。神から賦与されたものと自らを認めうるなら、神の恩寵を感じずにはいられません。

今日の福音は、まだ人生に期待すべきだと気づかせてくれます。医学の進歩とともに、今や命は人間の手のうちにあり、人間が創造主の役割まで担うといった風潮がはびこっています。墮胎、安楽死、はてはクローン人間まで、驚嘆するほどのありさまで。生命は一つひとつが神の神秘なのです。タゴールは次のように言っています。「生まれてくる子供たちは、神がまだ私たちに失望していないというメッセージそのものです。」

(Beatrice)



## 年間第5主日

## 「すべての人に対してすべてとなる」

(I コリント 9 : 22)

パウロは、ユダヤ人に対してはユダヤ人のようになり、律法の下にある人に対しては律法の下にある者のように、律法と無関係な人々に対しては律法に無関係な者のようになり、良心の病んでいる人に対しては良心の病んでいる者のようになったと言います。これは自分を偽ったり、演技したりしたという意味ではないでしょう。そうだとしたらとても人々の信頼を勝ち得ることはできません。むしろ相手と似た要素を自分の中に探し求めてそれを深め、積極的に共感し、その人の人生をともに担っていったのだと思います。パウロはそれだけのことができるほどキリストにおける自由を持っていました。言い換えると自分から解放されていました。

私がかつてこの御言葉の意味を、泰然自若としていて動揺しないことだろうと考えていました。そういう例を実際に見たからです。私が一時期仕えた仏教の師匠がそれでした。師匠は1万円のお布施でも数千万円のお布施でも、まったく同じように感謝して受け取っていました。最高級のホテルに泊まっても、あばら家に泊まっても同じように満足しているように見えました。師匠のお供をして某国の最高級ホテルのスイートルームに泊まったことがあります。私などVIPはこういうところに泊まるのかと興奮したものです。食事に関しても師匠はどんなものでも同じように感謝しながらいただいていた。すべての人に対してすべての者となるというのは、金持ちに対しても貧乏人に対しても同じように尊敬の心をもって接するという意味で、この師匠のような態度を指すのだろうと思ったものです。

しかしよく考えてみると、師匠の態度は立派ですが、パウロに代表される福音的な生き方とはずいぶん違うことに遅まきながら気づきます。パウロの生き方はもちろんキリストの生き方を手本としていて、神の御言葉が人となったへりくだりが大前提にあります。相手の低さにまで下り、相手の喜びを喜びとし、悲しみを悲しみとする連帯・共感、それゆえキリストにならうことです。言わばキリストの受肉に倣うことです。パウロは自分のために奴隷となってくださったキリストと深く出会いました。だから、キリストの弟子としてすべての人に対してすべてとなるのです。

それに対して師匠の態度は、人格の大きさ、毅然たる態度、何ものにも影響されない精神の孤高を志向するものです。パウロも師匠も両方とも立派ですが、模範とするものが一方では十字架につけられたキリストであり、他方は多くの弟子に崇められつつ静かに入滅した釈迦であるという大きな違いがあります。誰を模範とするかでずいぶん違ってきます。私は十字架で亡くなってくださったキリストに倣いたいと思います。

(新井)

## 年間第六主日

重い皮膚病の人がイエスに「御心ならば、私を清くすることがおできになります」とひざまづいて願った。イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、言われた。「よろしい。清くなれ。」 マルコ. 1 ; 40-45

私たちを自らの愚かさから救うのは神の慈愛である、今日の福音はそう示しています。しかし神の慈愛は、願い求めるときに限って得られるものです。私たち罪人に必要なのは、この皮膚病を患った人の持つ信仰と信頼です。彼はイエスの慈愛と力をかたく信じました。「御心ならば私を清くすることがおできになります」この言葉が、イエスへの歩みとなりました。私たちの歩みもこうあるべきです。イエスは私たちを救おうとなさっています。人となられたことと十字架上で死が、その証しです。

インドのハンセン病病院で看護婦として働いていた私は、ある日、一人の患者の傷口に包帯を巻いていました。そのひどい傷口を手当する私の手もとをじっと見つめながら、まだ年若かった彼女は言いました。「シスター、私も昔はそんなきれいな手だったわ。でも今は違う、もう決してそんな手にはもどらないわ。」それでも私は彼女に言いました。「もう治らないなどと思わないで神に信頼して治療に専念するなら、その手はすっかり元の通りになることでしょ。」強い信仰を持っていた彼女は、私の言葉どおり神に信頼して治療に励み、数年後にはその重い病気から回復したのです。

このできごとはすべての人にとって大切なメッセージを含んでいます。人生に何度か起きることがらを説きあかしています。私たちは時にたいへんな不幸に見舞われます。愛する人が死に、友人にだまされ、事故では障害を被ります。父親は仕事を失い、母親はアルコール中毒となり…。そのような災難がふりかかったとき、私たちは悲嘆と苦悩にうちひしがれます。この重病を得た者のようにうちのめされてしまいます。

立ち直れないことほど恐ろしい不幸はないのだとこの話は語ります。回復不能なほどの打撃を与える不幸、それほど悲劇的なものはないことをも示しています。人生がもう終わりだと思うときにはいつでも、イエスに立ち戻ることだけが必要です。イエスには私たちの崩れ壊れた人生が立て直せます。以前そうであったよりもずっとすばらしく、より値打ちのあるように、私たち希う者にもたらしてください。

個人的なふれあいこそが窮地にある人の救いとなることを、イエスはよくご存じです。人間関係における個人的・直截的なつながりは、なくてはならないものです。自殺や離婚、遺棄（捨て子）などによって引き裂かれる今の時代、またあらゆるところで機械化の進む現代にあって、さしのべられた手の代わりとなり得るものは他にはありません。

周囲で助けを必要としている人々に私たちのこの手をさしのべることを、イエスは示してくださっています。

(Beatrice)

年間第7主日

## 「その人たちの信仰を見て」

(マルコ 2:5)

4人の男が中風の人を運んできました。あまりに人が多くてイエスに近づけないので、屋根をはがして穴を開け、病人の寝ている床を吊り下ろしました。イエスは中風の人に「あなたの罪は許される」と言うのですが、その前に「その人たちの信仰を見て」と言う注目すべき事が書かれています。これはマタイ、マルコ、ルカいずれにもあります。

人は神から責められるとき、自分の罪のゆえに責められます。かつては先祖の罪ゆえに、子孫がその責任を問われると考える人もいたのですが、預言者エレミヤとエゼキエルがこの考え方を否定しました。エレミヤは『父が酸いぶどうを食べたので子供の歯が浮く』と言われることはなくなる。人は自分の罪のゆえに死ぬ。誰でも酸いぶどうを食べる者は自分の歯が浮く(エレミヤ 31:30)と語り、神の御考えを力強く伝えました。罪を犯した本人が責任を問われるのであって、その人が罪を犯すに至った原因が他の人のせいでない限り、本人だけが責任を問われます。

しかし救いの場合果たして同じなのでしょう。人は自分の信仰のゆえに救われるとだけ言えるのでしょうか。まず信仰は功德と違います。自分の力で持てるものではありません。信仰を持てたこと自体お恵みです。神からの恵みが、直接的に働くか、あるいは誰かを通して間接的に働くかして信仰が与えられます。信仰があるということは、すでに他者のその人への何らかの働きがあったということです。

また神は人を個別的に、まったく相互の連絡なしに聖化し、救うのではなく、救いの計画にあたり、まずご自分の民を作るところからお始めになりました。つまり救いには共同体性があります。

イエスが中風の人を許したのは、病人本人だけでなく、病人を運ぶ人たちの信仰を見たからです。ここに私たちは他の人の救いのために働けるという大きな希望を見ることができます。神は私たちが他の人の救いのために働く事を望んでいらっしゃいます。

生きている人のためなら、病人を運んだ人たちのように何かの役に立つ活動をしたり、あるいは話を聴いてあげたり、励ましと慰めの言葉をかけたり、とにかくいろいろな事ができます。さらに生きている人だけでなく、死んでしまった人の永遠の幸せのために貢献する事もできます。免償を代願の形で譲る事ができます。プロテスタントの中には死者のために祈るのは間違っていると主張する人もいますが、こういうことを聞くと悲しくなります。神は生きている者も死んでいる者も共に救おうと望んでおられるのです。神は私個人の信仰だけでなく、共に心を合わせて祈る私たち(複数)の信仰をもご覧になるからです。

(新井)

# フォコラーレニュースより

## 「土の器」と「宝」.

わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。

(二コリント4・7)

コリントのキリスト者たちは、使徒パウロを他の博識で雄弁な説教家たちと比較して見ていました。彼らは、説教家の立派な話や哲学的考察が好きだったのですが、パウロは、人の知恵に教えられた大げさな言葉は使わず、自分は肉体的にも試練を受けた弱い者だと率直に話していました。しかしイエスは、まさにこのようなパウロに対し、ダマスコの道で、満ち満ちた形でご自分を現されました。その時以来、神の働きによって、パウロの心にはイエスの光が輝くようになりました。そして、この光をすべての人にもたらずよう、神はパウロを派遣されたのでした。しかしパウロは、自分に与えられた使命が、言葉で言い尽くせないほど尊いものであり、自分はそれに全くふさわしくないことを、他のだれよりもよく知っていました。それは、貧弱な土の器に、宝が納められているのにも似ていました。私たちも幾度となく、自分の貧しさや限界を感じるものです。自分に委ねられた使命を果たすために力不足であること、自分の召し出しに完全にこたえられないこと、また自分の力を越えるような状況を前にして無力を感じることもあります。さらに、自分の内に、善よりも悪の方にたやすく引っ張られてしまう傾向があり、意志が弱くて、なかなか抵抗できないことがつきます。私たちもパウロのように、自分が「土の器」であることを感じるでしょう。また周りを見渡してみると、家庭の中や、自分の属している共同体・グループの中にも、同じような弱さや、もろさを持つ人々によく出会います。

また「キリスト教一致祈禱週間」を迎える今月（一月）は、このパウロの言葉を考えずにはいられないでしょう。私たちキリスト者は、神から「宝」をいただいているにもかかわらず、数世紀にわたり一致を実現できずにいるからです。

わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。

「土の器」である自分自身に目をとめるなら、私たちは落胆するほかありません。しかし唯一見つめるべき大切なものは、私たちの内にある「宝」なのです。パウロは、自分の「土の器」にはキリストの光が宿っていること、キリストご自身が生きておられることを知っていました。だからこそパウロには、キリストの御国を広げるため、どんなことにも立ち向かう勇気があったのです。

キリスト者である私たちの内にも、この無限の宝、すなわち三位一体がおられます。心

の中をしてみるなら、そこには、愛の深淵、底知れぬ深み、神聖な太陽のように、三位一体がおられることに気がつきます。

また、周りの人を見る時、私たちは相手の“土の器”の部分にすぐ目がいつってしまうのですが、その向こう側には“宝”があることに気がつくでしょう。このようにするなら、私たちは相手を見かけで判断しなくなります。私たちの内に住まわれる三位一体の光を「そばにいる兄弟姉妹の顔の上にも、見いだす」ようにと、教皇ヨハネ・パウロ二世も言っておられます。

わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。

では、このみ言葉をどのように生きればいいのでしょうか。

これは、一人の例外もなく、私たち皆に向けられた言葉です。キリスト者は、復活のキリストの御顔に輝く栄光の宝を、共に人々に知らせるよう求められています。しかし、自分がこの宝を持っていることを十分意識するには、この宝とのかかわりの中で生きる必要があります。私たちは、三位一体とほんとうに一つになるところまで、共に生きることができます。三位一体のペルソナである御父、御子、聖霊と、個人的な関係を生きることができ、それによって神ご自身が、私たちの内で働かれるようになります。

私たちには、御父がおられます。私たちの“土の器”の中には、一人の父がおられるのです。使徒ペトロが勧めるように、私たちは、すべての思い煩いや心配を、この父に委ねることができます。子は、大きな信頼をもって、どんなことでも父親にすっかり委ねるものです。小さな子供が安心して、お父さんの腕に身を投げ出すように、父は子の支え、よりどころです。

また私たちの内には、御子もおられます。御子が人となられたのが、イエスです。私たちはイエスを、ご聖体の中、み言葉の中、イエスの名によって私たちが一つになっているところ、貧しい人の中、イエスの代理者である教会の責任者の中、また自分の心の奥で、深く愛することを習いました。また自分の限界や弱さ、失敗の中でも、私たちはイエスを愛することができます。イエスは罪人ではありませんでしたが、私たちの弱さ・もろさをご自分のものとされました。イエスは、私たちのすべてを背負ってくださったので、人生のあらゆる試練の中で、私たちを支えてくださいます。試練をどう乗り越えればいいのか教えてくださり、私たちに再び光と平和、力を与えてくださいます。

そして聖霊も、私たちの内におられます。私たちは、もう一人の自分に話すかのように、安心して聖霊に心を打ち明けることができます。聖霊は、私たちが願う時には、いつも答えてくださり、知恵の言葉を与えてくださいます。私たちに慰めと光を与えながら、“真の友”として、私たちを愛してくださいます。

これ以上に素晴らしいことは望めないでしょう。“愛そのもの”が、私たちの心に住まいを定められたのです。これは、私たちの“宝”です。もはや私たちや他の人の“土の器”

は、障害物にも落胆の種にもなりません。そうではなく、この“土の器”を通して、神が私たちの内や周りで、光と命を輝かせてくださるのがわかるでしょう。この光と命は、人間的な能力からくるものではなく、私たちが自分の内におられる神の存在に気づき、その神を愛したところから生まれる実りです。

こうして私たちも、パウロのように、すべてを神の御国のために用いることができるでしょう。そして“キリスト者同士の満ち満ちた、目に見える交わり”に向かうためにも、私たちには一層の力が与えられるでしょう。次のパウロの言葉を、私たちも自分のものとして言えるでしょう。「わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために」(二コリント4・7)

キアラ・ルービック

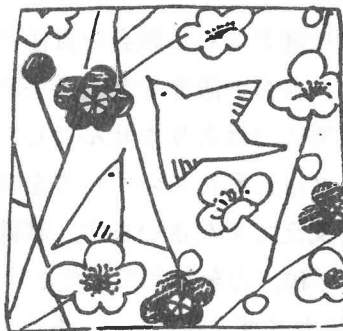
フォコラーレ・センター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055

E-mail [focolare@sa.uno.ne.jp](mailto:focolare@sa.uno.ne.jp)



## はなむけ

役に立たないボランティアとは、まさに私のことでした。死にゆく方達をお世話する施設で、週一回ボランティアをしていた時のことです。頼まれたわずかばかりの仕事をする、あとは何をしてよいか分からず、私は、ただ施設内をうろうろしては、患者さんに話しかけたりしていました。

その日、ある部屋に入ると、銀髪のきれいなおばあさんが、窓際のベッドに横たわっていました。彼女の顔をのぞきこむと、目を輝かせて、私の顔をじっとみつめます。そして、「きれいな顔！いのちのみなぎる顔！」とそう言ってくれました。死をまもなく向かえようとしている彼女にとって、健康だった私は、きつといのちに輝いて見えたのでしょう。

私が、そこでボランティアをしているということを話すと、良いことだと彼女は喜び、励ましてくれました。そして、かすれた声で静かに、でも力をこめて、こんなことを言ってくれたのです。

「人生から、取ろうとしちゃだめ。  
人生は、与えるためにあるのよ。忘れないでね。」

きれいな目をキラキラさせながら、彼女はゆっくりそういいました。

次の週に行ったときには、彼女はもういませんでした。でも、私の心には、彼女の言葉が深く残りました。

役に立たないボランティアの私は、天国へと旅立つ彼女のために、何も出来ませんでした。でも彼女は、まだ地上の旅を続けなければならない私に、尊い「はなむけの言葉」を残してくれたように思います。あれから長い年月を経ても尚、私は、悩んだり迷ったりするときに、「人生は与えるためにあるのよ」という彼女の言葉を、ちよくちよく思い出します。

キリストの香りに包まれた、あの美しい「はなむけの言葉」を、ここで、皆さんと分かちあえることに感謝したいです。  
丸山知佳子

## 諸所の企画についてのご紹介

### ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

\*いのちの泉へ カルメルの霊性に学んで、祈りの道を歩みたい人々のための  
祈りの集いです

講話：伊従信子・片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

2月22日（土） ルルドの聖母、カルメルの聖母

（2月22日の集いのみ一部で終了）

3月29日（土） 大聖テレジアと聖ヨゼフー祈りの人ー

プログラム：第一部 午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合い

第二部 午後5時から ミサ（日曜日）夕食、祈り夕べ（8時頃まで

参加費：一部のみ200円・二部までは500円

申し込み：電話(18:00-21:30)・Fax(03)3594-2254またはTel(03)3594-2247まで  
詳細は電話でお尋ね下さい。電話（18時～21時30分）

### スズランハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェ  
ルビーイングを研究開発実践する施設。：詳細を知りたい方は、下記へ

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

### 風の家

指 導：井上 洋治 師（東京教区司祭）

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『<sup>フネ</sup>風』編集者

\*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

#### 祈りの集い

1月 9日 教会の公の祈り

2月12日 聖書を味わって祈る

3月13日 聖イグナチオによる、黙想ならびに霊操

4月10日 十字架の道行きの祈り

5月 8日 ロザリオの祈り

#### 黙想会

このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。（宿泊10名迄可）  
ご相談ください。申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186



## マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 6-2

TLE.03-3351-0297

1. 聖書深読黙想会 : 毎月第二日曜日 対象: どなたでも
2. 詩編: 毎月第一火曜日 (第一火曜が祝祭日に当たった場合は第二火曜日)
3. ヨハネ福音書: 五月で詩編が終わり、六月よりヨハネ福音書に入ります。同じ第一火曜日です。ご自由にご参加下さい。
4. 祈りの集い : 毎月第三土曜日 18:00~20:00.
5. 「来てみなさい」結婚、修道生活、独身生活を選定したい方、自分の人生について考えたい方

対象: 20代、30代の未婚女性 参加費: 500円(弁当持参)

(10:00~16:30)ミサあり。

\* 毎月指導者が変わります。お問い合わせ下さい

2003

2/23 (日) 何でもこの方の言う通りにして下さい (ヨハネ2.5)

3/23 (日) 彼らをこの世から取り去ることなく悪から守って下さるように、と、私はお願いします (ヨハネ17.15)

## 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い (問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで!)

● 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか?

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは: 165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

『心のいほり、内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

\* TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

\* 活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

\* 希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

2003. 2/9 (日) 2時~2/15 (土) 2時まで、京都、竜安寺  
2/24 (月) 10時~3/1 (土) 2時まで、場所未定  
2/17 (月) 6時~ 2/22 (土) 2時まで・石垣島  
3/9 (日) 2時~3/15 (土) 2時まで、鹿児島溝辺  
3/23 (日) 2時~3/29 (土) 2時まで 兵庫、宝塚売布  
4/3 (木) 2時~4/9 (土) 2時まで・横浜・戸塚  
4/21 (月) 10時~4/26 (土) 4時まで・京都・竜安寺  
5/3 (土) 10時~5/5 (月) 4時まで・兵庫・宝塚  
5/11 (日) 2時~5/17 (土) 2時まで・兵庫・生野  
5/25 (日) 2時 5/31 (土) 2時まで・未定・関東

瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師（神言会） \*詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

リーゼンフーバー研究会案内

2003

キリスト教 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペ  
入門講座 ホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本テーマを致します。

キリスト教 毎月第一・第二火曜日18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会  
理解講座 アルペンホール。キリスト教の基礎知識のある方。2年間コース  
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分上智大学7号館316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

座禅会 \*月曜日 17時20分～20時10分 \* 木曜日18時20分～20時30分  
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心 2003. 3/15 (土)8時30分～3/16日 (日) 16時 上石神井 (5400)

ミサ：水曜日

17:10～18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂  
どなたでも（8月を除く）

黙 想：毎月第2、第4火曜日18時45分～20時

水曜日 18:00～18:30 場所：上同じ（ミサ、黙想、(8月、11/1 を除く)）

祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00 場 所：S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。\*2003.1/18.2/22.3/8

黙想会： 2003. 3/1. (土) 10時～2日 (日) 15時 1泊4400円

アガペ会： 説明会と集い・下記の日 13時30分～ (20代～40代の信者)

クリスマス会

ミサ

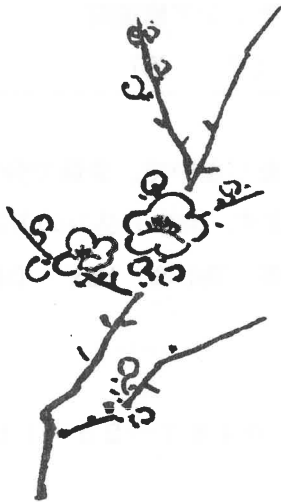
以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父  
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス  
直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX,03-3238-5056

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座

対象：キリスト教についての基礎知識を持ち、信仰をより深く考えたい  
理解したい、生きたい方はどなたでも歓迎です。

各回のテーマ

- 2/4 [教会] 教会の構造—その起源と機能
- 2/18 キリスト者の一致—分裂と和解
- 3/1~2 \*黙想会
- 3/4 しるしとしての教会—社会における信仰者の課題
- 3/18 母なる仲間—信者と教会の原型マリア
- 3/29 感謝のミサ (2 pm クルトゥハイム2階)



## 横浜聖書深読黙想会2003年日程

回数	月 日	場 所	指導司祭	備考
第1回	1月29日(水) ～30日(木)	イエズス会鎌倉修道院 (十二所)	新井 延和 師	
第2回	3月26日(水) ～27日(木)	上野毛修道院黙想の家 (東京 世田谷)	星野 正道 師	
第3回	5月29日(木) ～30日(金)	ザビエル・センター (横浜 滝之上)	奥村 一郎 師	
第4回	7月10日(木) ～11日(金)	不二聖心会黙想の家 (裾 野)	新井 延和 師	
第5回	10月9日(木) ～10日(金)	ザビエル・センター (横浜 滝之上)	九里 彰 師	
第6回	11月18日(火) ～19日(水)	聖テレジア修道院 (宇 治)	奥村 一郎 師	

\* 当会では今のところグループ分けをしないで、全員で分かち合いをしたいと思っておりますので、一応15名を定員とします。お申し込みの方はお早めをお願い致します。

連絡責任者 密本 昌俊 Tel & Fax 045-621-5838

[イエズス会鎌倉修道院黙想の家]

〒248-0001 鎌倉市十二所 80 Tel 0467-25-1616

[上野毛修道院黙想の家]

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-5706-7355

[不二聖心会黙想の家]

〒410-1126 裾野市桃園 198 Tel 0559-92-2120

[聖テレジア修道院]

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 Tel 0774-32-7456

[ザビエル・センター]

〒231-0837 横浜市中区滝之上 1 Tel 045-621-1974

## 聖書深読ご案内

翌日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解説で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想に、お誘いの上、ご参加ください。

- |     |           |          |
|-----|-----------|----------|
| 1.  | 1月11日(土)  | 北村 善朗 神父 |
| 2.  | 2月 8日(土)  | 奥村 豊 神父  |
| 3.  | 4月12日(土)  | 新井 延和 神父 |
| 4.  | 5月10日(土)  | 奥村 一郎 神父 |
| 5.  | 6月14日(土)  | 北村 善朗 神父 |
| 6.  | 7月12日(土)  | 新井 延和 神父 |
| 7.  | 9月13日(土)  | 奥村 豊 神父  |
| 8.  | 10月11日(土) | 奥村 一郎 神父 |
| 9.  | 11月 8日(土) | 中川 博道 神父 |
| 10. | 12月13日(土) | 新井 延和 神父 |

場 所 : 河原町カトリック会館6階  
費 用 : 各回2500円 (昼食代を含む)  
時 間 : 午前10:00~午後4:00  
持参品 : 聖書・筆記用具・ノート

\* 申込・問合せ : 〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル  
河原町カトリック会館内 聖書委員会  
TEL:075-211-3484 FAX:075-211-3910  
各回、お申込は、3日前までに

主 催 : 京都教区聖書委員会

# 黙想会 ☆☆ご案内☆☆

わたしたちの心は  
燃えていたではないか  
～ 主の招きに生きる ～

日時：2003年2月15日(土)13:00～16(日)16:00

場所：上野毛カルメル会《テレジア黙想の家》

☎158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 ☎ 03-5706-7355

東横線「自由が丘」で大井町線に乗り換え、上野毛駅で下車。 一徒歩7分程度

指導：星野正道師（カルメル会司祭）

対象：20代～30代 女性信徒

参加費：5000円

申込み先：聖ウルスラ修道会《東京修道院》or《一本杉第2修道院》

①東京修道院住所、〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町4-27-18

☎/FAX 0422-56-9889 係→Sr,小針

②第2修道院住所 〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1-2

☎ 022-286-1525, FAX022-286-2804 係→Sr,瀬戸

申込み：2003年2月7日(金)まで。

(電話、FAX、はがき等でお申し込みください)

日程(祝)

《第一日目》

受付：13:00～13:50

礼拝：14:00～14:30

講話：①14:30～15:30

休憩：15:30～15:45

個人黙想：15:45～16:30

個人面接：16:30～17:30

晩の祈り：17:30～17:50

夕食：18:00～18:50

講話②19:15～20:15

《第二日目》

朝の祈り：7:30～7:50

朝食：8:00～8:45

③講話：9:15～10:15

休憩：10:15～10:30

個人黙想：10:30～11:15

分かち合い：11:15～12:00

昼食：12:00

個人面接：13:00～14:00

個人黙想：14:00～14:30

ミサ 14:40～15:30

《ミサ後ブレイク・解散》

## いたみ

皆さんは、自分が苦しい時、助けを必要としている時、周囲の人達に上手くそれを伝えられなかったという経験はないでしょうか。

ある教会でミサに与かった時のことです。ミサ中にゆるしの秘蹟を受けようと告白室の前へ行きました。近くの椅子に女の人が座っていたので、「告白をなさいますか」とたずねました。すると、彼女は私を睨みつけ、「結構です！」と刃物のような口調で言い、次の瞬間、な、なんと、私を蹴飛ばしたのです！

とても驚きましたが腹は立ちませんでした。むしろ、最初は、笑いがこみあげてくるような気持ちがあったと思います。告白に来て蹴られるというのは、何とも言えず可笑しいですし、蹴られた膝をさすりながら告白室でひざまずいている自分も滑稽に思えました。また、人を蹴っておきながら、平気な顔で、ミサに与かっているこの女性も、ちゃっかりしていて、何処か面白く感じました。ちなみに、私は蹴り返しませんでした（念のため断わっておきます！）。

でも同時に、ただ笑って済ませないような苦味も、わたしの心に残りました。というのも、あの女性が、幸せそうではなく、怒りや不満で一杯の顔をしていたからです。わたしを蹴って、彼女が少しでも幸せになれたのなら、蹴ることの善し悪しはともかく、蹴られがいもあるというものです。一方、蹴られた方のわたしは、あの日、ゆるしの秘蹟を頂き、御ミサに与かり、御聖体の秘蹟を頂き、深く心が満たされて飛びっきり幸せだったのです。この幸せを、彼女も必要としていた筈なのに、水たまりに映った小さな空ほどの慰めも得られないまま、帰途についた彼女を思うと、悲しいです。

私が蹴られた痛みより、もっと大きな痛みを、彼女は、それまでの人生で味わって来たのではないのでしょうか。蹴られたあの一瞬に、彼女から感じた怒り、悲しみ、そして、何よりも愛への深い渇きは、否定的な方法でしか、自分の苦しみ、SOSを表現出来ない人達の思いを代表しているようにも感じました。教会の助けを必要とする多くの兄弟姉妹達の、言葉にならない叫びを、あの蹴られた痛みにも、聴く必要があるのではないかと、私は感じています。

「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。

主よ、この声を聞き取ってください。」（詩篇130）

丸山知佳子

上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線：「上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「六地蔵駅」下車徒歩15分

京阪バス：六地蔵の町並バス停より御蔵山行きおくらやまに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って明礪橋あかりはしを右折

男子跣足カルメル修道会



## お 原 頁 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 縮 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

- 
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は佐々木茂子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

☎045-575-5722

---

## あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道

